



堆肥舎の屋根に上がり、皆で除雪。信州立屋共働学舎
(3月4日)

会員の皆様

理事長 福澤和雄

「わたしは新しいおきてをあなたたちに与える。
互いに愛し合いなさい。わたしがあなたたちを愛した
ように、あなたたちも互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネ伝 13章 34節)

共働学舎の構想・第1ページより

「もし一つの肢からだ体が悩めば、ほかの肢体もみな共に
悩み、一つの肢体が尊たつべられると、ほかの肢体もみな
共に喜ぶ。」

(コリント第一の書 12章)

皆様は、どのような新年を迎えられたでしょうか。
瞬く間に広がったオミクロン感染の最中、春を待つ
今ですが、どんな状況下でも希望を持ち続けたいも
のです。第二次世界大戦下のアウシュビッツ強制収
容所の中でも礼拝は持たれ、希望は在ったと、『夜
と霧』の著者 فرانクルは書いています。人間の持
つ残酷性と天使性に、不思議以上の何かを感じます。

無我夢中で共働学舎を生きて来ましたが、今も相変
わらず右往左往、無我夢中です。先日、「あと2年で、
共働学舎の設立から半世紀になる」と言われました。
改めて、会員の皆様と天の父に感謝で一杯です。

皆様の応援があつて、共働学舎は存続させていた
だいてきました。おかげで私達の衣食住は豊かです。

その一方で、コロナ感染の影響で弱い立場にある
人々はさらに弱くなり、その日の食べもの、住む所
にも事欠く状況が日本の社会にあります。また地球
上では、東アフリカ地方だけでも異常干ばつで 120
万以上の人々が飢餓にさらされ、内戦などで多くの
難民が各地で悲鳴を上げています。

この会報を書きながら、私の心は揺れています。
「共働学舎の構想」の最初のページにある聖句は、
共働学舎の存在理由です。私達は、自分の存在や発
展だけを考え、行動してはいないか——。もう一度、
皆様と共に、祈りつつ考える年にと思っています。

そんな想いや今の生活を、幅広い世代の方々にお
伝えたく、今号から会報を新しくしました。

東京報告会の中止と、YouTube 配信のお知らせ

春の報告会は、日頃のご協力に感謝し、現場の様子
を知っていただく大切な機会ですが、コロナ感染の
心配が残る今年も、残念ながら中止といたします。

昨秋の「オンライン収穫祭」の各地の報告の録
画を、4月1日～14日までの2週間、会員の皆様
限定で YouTube で公開します。視聴をご希望の方
は、以下にお申し込みください。

kdgstokyo@gmail.com

2022年の冬は、各地とも例年にない大雪に見舞われました。除雪に追われる日々の中でも、春に向かう準備が始まっています。

信州・立屋／真木



- ▲ 輪かんじきで雪を踏みしめ真木へ
- ▶ 毎年、恒例の餅つき

雪かきの毎日

上原義行

朝、あじさい荘（立屋）の雪かきをして車を出し、動物の世話に行っています。建物が多いため、雪かきをする場所も多くなります。コロナや経済などで悩んでいる人の事を思うと、少しでも学舎の生活を改善できる所は変えていければいいなあと思います。木作業は、毎日のように雪かきが大変だったためになかなかできませんでしたが、雪が降るのが落ちついたら、できるようになりました。

いつにない積雪

坂井明子

今年は湿った重たい雪が降り、立屋でも経験のないような積もり方です。除雪作業が続き、織物などの室内作業はほとんどやれないでいましたが、ようやく工芸作業にも取り掛かれそうです。田畑は今、深い雪に覆われています。雪解けの春に始まる農作業に備え、作付け計画を立て始めました。困難あり喜びあり、力を合わせ生活したいと思います。

*手塩塾のご案内（6月～11月）

織物・コモ編み・藍染め等の工芸や、コンニャクなど食品作り他の体験ができます。日帰り・宿泊可。詳細は、立屋共働学舎にお問い合わせください。

昨年の“真木プロジェクト” 井上宗高

水車製材所建築の5年目は、写真左側、製材後の材を受けて保管する部分を増築しました。少なくなったメンバーや、コロナによる来客、研修生の中止等で労働力減の中、小野田棟梁は足しげく真木に通ってくださり、大きな支えでした。感謝！



詳しくは次号で報告します

ねいらく 寧楽



毎日の卵取りは休みなし

フル稼働の冬からうれしい春へ 毛利順子

年末から降り続いた雪が元旦にかけドカ雪となり、雪の重みで堆肥ハウスがほぼ全壊しました。その後も次々と降る雪に、ユンボや大小のタイヤショベルはフル稼働です。

このコロナ禍で肉作業が増え、メンバーの半数近くが60歳以上となり、こちらもフル稼働です。ただ良かったことは、メンバーの一人が奈良の実家に2年ぶりに帰れたことと、マスクや手洗い・消毒のおかげで皆、風邪を引かなかったことです。定期的な全員検温もコロナが始まって以来継続しています。

昨年はつきあいの長い養豚場が火事になり、良い仔豚を入手することが難しくなりました。豚の肥育に時間がかかり、死亡率も高めとなってしまいました。鶏はこの寒さの中でも、7割ぐらいが順調に卵

を産んでいます。田や畑は毎年少しずつ減らす傾向にあり、今年は残念ですが、お米作りをお休みすることにしました。冬の野菜も他学舎からも含めています。いろいろな人たちからいただきました。感謝です。

2月に入り、日差しも強くなり春の匂いがしてきました。3月末にはハウスで種まきが始まります。福澤雄幸君と由紀さんの2番目の娘の日咲ちゃんは、この春ピカピカの1年生になります。



1月は最低気温-15℃、最高-5℃位。薪ストーブの煙が暖かに。中央が食堂（母屋）、右は男子寮

雪の被害を新たなきっかけに 百瀬雄二

1月11日から12日にかけて、今季一番の大雪が降りました。50cmを超える降雪で、30年以上も大事に使い続けてきた野菜の育苗用ハウスが倒壊してしまいました。道具類も雪の下敷きになり、特に自作した大豆選別機が壊れたのは大きな痛手でした。



豆の選別を手作業で。* QRコードから「豆の選別機2号が完成!」「春のチーズ“さくら”のできるまで」の動画を

た。これも新たなきっかけをいただいたと前向きに捉え、種まきを始められるよう準備していきたいと考えています。

チーズ工房では、「さくら」の製造が最盛期を迎えています。熟成タイプは「World Cheese Awards 2021」で金賞を受賞。例年より多くのメンバーが参加して、活気に溢れ、強い連帯感を感じられます。メンバーの減少や、高齢化として表れている農場の課題、そこにコロナ禍が続く経営は厳しい状況です。その中で私達にとって揺るがないものは何かを考えつつ、今後の展望についての話し合いを重ねています。



集まれた日は勇気百倍!

心をつなぐ大切なクッキー 岡本美樹

コロナ禍にあって緊急事態宣言中はメンバーの健康を考えて活動を自粛したため、昨年の稼働率は60%でした。感染が収まった10月からはクリスマスに向けて沢山のご注文をいただき、年間の半量を生産。難しい状況でも皆様の応援で何とか前に進むことができました。年が明けて心新たに活動を始めた矢先に再び感染拡大し自粛。3月7日から再開しましたが、今年も活動が難しい年になりそうです。

それでも「いただいたクッキーがおいしかったから!」というご注文は嬉しく、応援して下さるお一人おひとりが営業部長の任を引き受けてくださったにちがいない!と感謝です。素朴で味わいのあるクッキーは南沢共働学舎と皆様の心をつなぐ大切な品。今年も応援に感謝し、皆で心を合わせ、心を込めてお届けしたいと思います。



1974(昭和49)年4月、共働学舎は長野県小谷村立屋で初めの一步を踏み出しました。1カ月半後の5月15日、第1号の会報が発行されます。ぎっしり詰まった文字は、創設者宮嶋眞一郎さん(当時52歳)の手書き。わら半紙1枚、両面に刷ったものです。

「皆様の協力と励ましのお陰で共働学舎を始める勇気を与えられ今年に入って準備をすすめて参りました。五月になってやっと春を感じます。長い冬でした。」と始まり、美しい早春の風景、一人また一人と集まってきたメンバーの紹介、田畑が与えられて暮らしが動き出した喜びが、躍動感をもって綴られています。

「私達は経験も力もまことに乏しいものですが、目前の現実には正直に取り組むことによって現在の日本の社会に何が必要かを訴え、それを満たす方向に少しでも役立てば幸いであると思ひ、心を一つにして祈り勵んでおります。 宮嶋眞一郎」

まだ電気のなかった母屋でランプの下、皆で大騒ぎしながら一枚一枚謄写版を刷り、発送の準備をしたことが思い出されます。発行部数は400部足らずでした。(雪山香代子)

***この欄では、創設50年を前に、今年度は共働学舎の歩みを振り返り、来年度はこれからを展望します。**

《2022年度・前半の予定》

- 4月 会報春季号(新得味わい便ご案内)
- 5月 信州田植えボランティア募集
- 6月 信州手塩塾(～11月)
会報夏季号(寧楽ギフトセットご案内)
- 7月 信州子ども合宿

南沢のクッキーが“ベターライフ”をテーマとする雑誌『& Premium』(21年12月20日号)で紹介されました!



共働学舎のホームページ

新しいお知らせや各地の様子を発信しています



インスタグラム



ホームページ



新得お買い物ページ

ぜひ会員に!

NPO 共働学舎の会員制度

- ・正会員 総会に出席し運営に参加
入会金 1000円
年会費 6000円
- ・協力会員 年会費(何口でも)
1口 1000円
- ・寄付 随時お受けします。

[振込先] 郵便振替 00110-1-779127
三井住友銀行 ひばりヶ丘支店 普通口座 6735162
りそな銀行 ひばりヶ丘支店 普通口座 3927070
(口座名義) 特定非営利活動法人 共働学舎

〒164-0003 東京都中野区東中野 3-16-9-104

特定非営利活動法人 共働学舎 東京事務所

☎ 03-5937-5257 FAX 03-5937-5258

kdg.tyo@pc4.so-net.ne.jp <http://www.kyodogakusya.or.jp>

発行責任者 福澤和雄/印刷(有) 乗松印刷